

# 宇部市民オーケストラ

## 第9回 気軽にアンサンブル

♪ 日時：2010年7月11日（日）午後2時開演

♪ 場所：男女共同参画センター・フォーユー3階ホール

♪ 主催：宇部市民オーケストラ、共催：宇部市定期文化講座講演会



本日は宇部市民オーケストラの「気軽にアンサンブル」にご来場いただきありがとうございます（皆様、参議院選挙の投票は済まされましたでしょうか？）。今年例年より少し遅い時期になりましたが、宇部オケの恒例行事として毎年開催してきて今回で9回目となります。今回も昨年に続いて宇部市男女共同参画センターの定期文化講座講演会との共催とさせていただき、開催に当り大変お世話になりました。

本日は前半に皆様方になじみの深い小品などを取り入れ、文字通り気軽にお楽しみいただければと考えております。日曜日の午後のひととき、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。



### プログラム

- 「エンドレスメドレー」、「ドレミの歌」、「フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン」、  
テレマン：無伴奏ヴァイオリンソナタ第3番  
FL：鈴木まさ子、宮崎真由美 <フルート2重奏>
- バッハ：「G線上のアリア」、パッヘルベル「カノン」、ほか  
Vc：藤野緑、加藤由香里、石井秀太郎、児玉佑司 <チェロアンサンブル>
- シューベルト：「菩提樹」  
マスカーニ：歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲  
ジョプリン：「The Entertainer」  
Vc：藤野緑、Cb：藤野隆 <チェロ・コントラバス2重奏>
- モーツァルト：フルート四重奏曲ニ長調 kv. 285 より第3楽章  
Fl：鈴木まさ子、Vn：安永恵、Va：濱野妙子、Vc：栗林宏明、
- ルロイ・アンダーソン：「シンコペーテッドクロック」  
バッハ：「アリオソ」、シューベルト：「楽興の時」  
Vn：安永恵、香川早苗、縄田美言、松井顕子、清水治子、朝日健一、在田和子、池田英子、田村紗季子、  
Va：濱野妙子、上野明弘、吉本久子、吉本宗明、Vc：栗林宏明、藤野緑、加藤由香里、石井秀太郎、  
Cb：藤野隆、杉村浩信、 <弦楽合奏>

— 休憩 —



- 平尾貴四男：管楽五重奏曲  
Fl：宮崎真由美、Ob：中村香織、Cl：向山尚志、Fg：村上曜子、Hr：福田誠
- ジョン・ラター：弦楽のための組曲  
（出演者は、5. と同じ）

## ♪♪♪ 曲目紹介 ♪♪♪



### 1. フルート2重奏

①「エンドレスメドレー」 英国・アイルランドの民謡3曲をメドレーにしました。

「ロンドンデリーの歌」: この曲は、イギリス領北アイルランドにある州の名で、この地方ではもうひとつの国家といわれるほど親しまれ、アイリッシュ移民の忘郷の歌でもあります。100種類以上の歌詞があるようですが、「ダニー・ボーイ」で始まるものが有名です。

「フォギー・デュウ」: 同じようなタイトルの曲がいくつかあるようですが、これは軽快な曲調とは裏腹に、今は一人で昔彼女を抱きしめて霧の朝露から守ってやったことを思い出す、という内容です。

「スカボロー・フェア」: スカボロー（英国北東部の地名）の市という意味で、サイモンとガーファンクルの歌で有名です。イングランド民謡の「エルフィン・ナイト（妖精の騎士）」というケルト色の濃いものがルーツとされています。

②「ドレミの歌」

ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の中の曲で、住み込み家庭教師としてトラップ家にやってきた主人公マリアが、子供たちに歌を教える場面で歌われます。

③「フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン」、

1954年に作曲家・作詞家のバート・ハワードが作った原曲のタイトルは『In Other Words』（「言い換えると」の意味）、曲調は3拍子で、現在多く採用されているアレンジとは装いをかなり異にしていました。現在多く耳にする『Fly Me to the Moon』が完成したのは1962年で、作曲家・編曲家のジョー・ハーネルが4拍子のボサノヴァ風アレンジ、その後フランク・シナトラがカバーして爆発的にヒットしました。

④テレマン: 無伴奏2つのフルート（ヴァイオリン）のための6つのソナタから第3番

テレマンはドイツ・バロックの作曲家です。幼少の頃からほぼ独学で音楽を学び、大学で法律を学んだ後、音楽家として活躍していきました。今日は6つのソナタのうち、第3番から第一楽章を演奏します。



### 2. チェロアンサンブル

バッハ: 「G線上のアリア」、 パッヘルベル: 「カノン」、ほか

こんにちは。チェロカルテット「チェリズモ」です。宇部オケのチェロパートはとにかくチェロアンサンブルが大好き。いつも何人か集まると2重奏から12重奏まで人数に合わせて様々な曲を弾いては楽しんでいきます。このチェリズモもその中から自然発生的に結成されました。『Cellismo(チェリズモ)』・イタリア語で『チェロ一番主義』といったところでしょうか。それぞれの価値観で『チェロ一番主義』を自負する4人が集まったともいえます。この度はG線上のアリア、パッヘルベルのカノン、メロウなタンゴなどなど普段から皆で楽しみながら合わせている楽しい美しい小品をお送りします。



### 3. チェロ・コントラバス2重奏

名前を見てわかるようにこの二人は夫婦です。音楽を通じて知り合い、結婚し十?年経過しますが、実は2重奏を初めてまだ1年も経っていません。これまで仕事、家事が忙しく、それどころではなかったのです。昨年頃からちょっとだけゆとりができたので何となく始めたら意外に面白いので今後も下手なりに続けようと思います。本日は夫婦ならではの絶妙なアンサンブルをお楽しみください。

①シューベルト: 「菩提樹」

この曲はシューベルトによる歌曲集「冬の旅」の第5曲に当たります。この歌曲では、失恋した若者が町を捨てて放浪の旅を続けていく姿が描かれ、全曲を通して疎外感や絶望と悲しみが強く表現されています。

②マスカーニ: 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲

マスカーニによる1890年初演の歌劇。タイトルは「田舎の騎士道」を意味します。劇中で演奏される楽曲の中でも「間奏曲」が特に有名で、単独での演奏機会も多く、TVのCMにもしばしば出てきており誰でも一

度は聴いたことがある曲です。

### ③ジョプリン：「The Entertainer」

ラグタイム王スコット・ジョプリンによる1902年（34歳）の作品です。ポール・ニューマンやロバート・レッドフォード等が出演した1973年のアメリカ映画「スティング（The Sting）」のテーマソングとして使用されて有名になりました。

### 4. モーツァルト：フルート四重奏曲ニ長調 kv. 285 より第3楽章

モーツァルトのフルート四重奏は4曲ありますが、今回は最も有名な第1番の3楽章を演奏します。

この曲はモーツァルトが21歳のときに作曲したと言われている、明るく華やかな曲です。第3楽章はロンド形式で、初めの主題が何回も繰り返し演奏されます。また、その間に奏でられる様々な旋律がいろいろな調に変化するところも楽しんでいただけたと思います。

### 5. 弦楽合奏

①シューベルト 「楽興の時」：シューベルトが作曲した6曲構成のピアノ曲集「楽興の時」の第3曲で、この曲集で最も有名な曲。直訳すると「音楽の瞬間」という題名が示すように、即興的な性格をもった愛らしく親しみやすい魅力に満ちた小品です。NHK ラジオ放送「音楽の泉」の主題曲としてもおなじみ。

②バッハ 「アリオソ」：カンタータ第156番の中の有名な小曲「アリオソ」が原曲。「アリオソ」とはイタリア語で「歌うように」を意味します。バッハの多くの旋律の中でも特に歌唱的で美しく、バッハ自身も大変お気に入りだったようで、その後いくつかの楽曲に転用されています。また「G線上のアリア」などと共に、様々なアレンジされて演奏されることも多い作品です。

③ルロイ・アンダーソン 「シンコペーテッドクロック」：「くるった時計」という意味の題名の曲。正確に一定のリズムを刻むはずの時計の音を、シンコペーションという、リズムや拍をずらす方法で表現し、独特のコミカルさとユーモアを生み出しています。元は管弦楽曲ですが、今日は弦楽アンサンブル用に編曲したものを演奏します。



### 6. 平尾貴四男：管楽5重奏曲

平尾貴四男（1907-1953）は、慶応大学文学部独文科を卒業後フランスに留学して作曲を学びますが、46歳の若さで世を去りました。この曲は亡くなる3年前の1950年の作品で、メロディは日本的な情緒に溢れながら楽器の使用法などからは近代フランスの響きを感じさせます。全体は3つの楽章から成り、第2・第3楽章は続けて演奏されます。曲には次のような彼自身の説明が付されています。

きわめて古典的な組み合わせである。

第1楽章 アンダンテ：5つの楽器の間に取り交わされるそこはかとなき思い出の物語

第2楽章 アレグロ：山野を駆けめぐる乱舞の心持

第3楽章 プレスト：無礼講の饗宴

### 7. ジョン・ラター：弦楽のための組曲

ジョン・ラターは1945年生まれで、主に合唱の分野で活躍しているイギリスを代表する作曲家です。

美しく親しみやすいメロディとわかりやすいハーモニーで人気があり、この弦楽のために書かれた4楽章からなる「組曲」も弦の響きが伸びやかで、とくにゆったりとした第3楽章のヴァイオリン・ソロの美しさはすばらしく、文句なしに楽しめる曲です。

1. さすらい

2. 私の青の縁取りのボンネット

3. おお、ウェイリー、ウェイリー

4. アイロンをかけまくる



—宇部市民オーケストラ・今後の演奏会のご案内—



## 第12回「クラシックの午後～気軽にオーケストラ」

2010年9月5日(日) 開場 13:00 開演 14:00

会場：宇部市渡辺翁記念会館

入場料：1000円（高校生以下 500円）

### <プログラム>

オッフェンバック 喜歌劇「天国と地獄」序曲

モーツァルト 2台のピアノのための協奏曲変ホ長調 K. 365 (316a)

ドビュッシー 「小組曲」管弦楽版

チャイコフスキー 交響曲第6番 ロ短調 作品74「悲愴」

指揮：兼重直文

ピアノ：兼重直文、兼重誓子

<この演奏会のときにも、開演前にロビーでアンサンブルの演奏を行います。>

## 第13回定期演奏会

2011年3月6日(日) 開場 13:00 開演 14:00

会場：宇部市渡辺翁記念会館 (予定)

### <プログラム>

ベートーベン 交響曲第3番変ホ長調作品55「英雄」

シベリウス 「カレリア」組曲

ほか

指揮：角 岳史

